

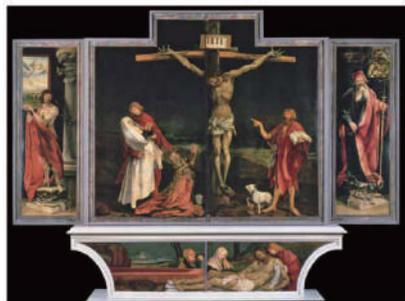


叢書「改革教会の神学」2

災禍において改革された教会

その祈りと告白、実践の歴史と現在

カルヴァン・改革派神学研究所 編



災禍において 改革された教会

その祈りと告白、実践の歴史と現在

カルヴァン・改革派神学研究所 編

教文館

新しい時代へ、開かれていく教会！

「たえず神の御言葉によって改革される」教会は、直面する危機にどう応えるか？
パンデミックや戦争、震災下の歴史に学び、世俗化、多様化が進む世界で未来を探る。
多彩な講師によるリレー講座の講演・対談を収録。

【目次】

- | | |
|---|--|
| 1 スイス宗教改革の発端としての感染症
——ツヴィングリの「ペストの詩」を読む 大石周平 | 6 亡命者の教会
——ヨハネス・ア・ラスコの実践と『ロンドン教会規定』の意義 吉岡契典 |
| 2 コロナ時代の信仰告白
——信仰のいろはをつづる ニクラウス・ペーター | 7 バルメン宣言を読む
——ドイツ、オランダ、そして日本の文脈で 朝岡勝 × 石原知弘 |
| 3 災いから再生へ
——カルヴァンの自然理解 吉田隆 | 8 たえず変転のうちにある教会
——ふるまいとしての宗教改革 リタ・ファモス |
| 4 ツヴィングリ
——ヨーロッパの改革者 キャサリン・マクミラン | 9 中国における信教の自由
——改革・長老主義の過去・現在・未来 松谷暉介 |
| 5 宗教改革運動から人権法制化へ
——日本国憲法に与えた福音主義運動の影響をめぐって 森島豊 | 10 関東大震災(1923年)と在日中国人キリスト者たち 渡辺祐子 |